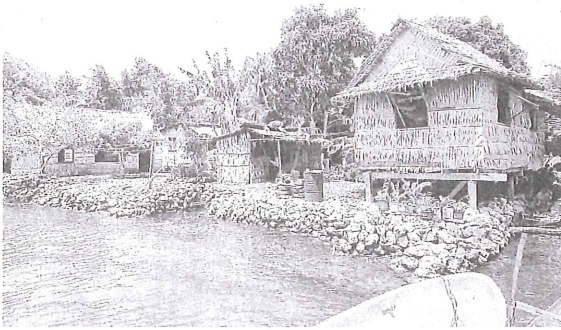


海面上昇で無人島消失

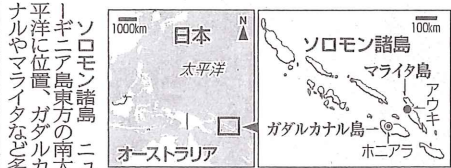
ソロモン諸島、危機深刻

千近くの島と環礁から成る南太平洋のソロモン諸島。海面上昇などの影響により、数十年間で無人島が五つ消失した。「地球温暖化はゆっくり確実にわれわれの首を締め付けている」(ソロモン諸島政府高官)。ドイツでは気候変動枠組み条約第23回締約国会議(COP23)が開催中。温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」離脱を表明した米国に對し、水没の危機が迫る現地では失望の声が聞かれた。

「右に見える小さなマングローブはもともとが、随分浸食されてしまっただけで、左の手前まで迫っていた」



ソロモン諸島・マライタ島の村で、石を積み上げて3、4カ月前に再建したばかりの護岸(4日共同)



ソロモン諸島はニューギニア島東方の南太平洋に位置。ガダルカナルやマライタなど多

島のポール・ワレーさん(45)が教えてくれた。首都ホニアラがあるガダルカナル島に次ぐ第2の島マライタ島。中心的な町アウキからボートで南下中、ガイ

の島で構成される。英国が1900年までに保護領化。日本軍が42年に占領したが、米軍の反攻で撤退した。76年に自治権を獲得し、78年に独立。英連邦に所属。住民はメラネシア系が大半で人口約59万人。主要産業は農業や漁業。木材や魚類、ココアなどを主な輸出品とする。首都はガダルカナル島のホニアラ。在留邦人は約90人(2015年10月現在)。16年12月ガダルカナル島沖でマグニチュード(M)7.8の地震が起きた。

諸島の海面上昇はこの20年間で年平均8〜10センチ。世界平均の3倍で、周辺の島しょ国と比べても深刻だ。

マライタ島の村には「キングタイド(潮の王様)」と呼ばれる大潮が年に2回やって来る。そのたびに護岸が決壊、浸水する。住民のロバート・サマレさん(67)は「水位は太ももへらになる。定期的に石を積んで護岸を再建せざるを得ない」と話す。

村では最近、サマレさんが中心になり、被災時の避難計画を策定。住民は丘陵部に逃げるが、移住は難しい。漁業で生計を立てる住民が多く、海から離れることへの抵抗感が強い上、土地の権利関係が複雑で転居がままならないからだ。

「あのマングローブの背後には大きな子どもがたったのに消えてしまった」。アウキから南10キロの小島、ブス島のステイブン・ハリさん(38)は、島の地形がすっかり変わったと嘆く。

島には300人ほどが住む。だが日常的に浸水するエリアが広がり、住民が密集するようになり、かつてはバナナやイモを栽培していたが、地下水位が上がり、塩分濃度も上昇したため育たなくなつた。住民は5、6年前に栽培を断念、アウキまで毎日ボートで食糧を買に行っている。

ハリさんは「子どもたちの世代は島の外に出た方がいいんじゃないかな」と寂しそうにつづやいた。

トランプ米大統領は6月、パリ協定離脱を表明。ソロモン諸島のメルキオール・マタキ環境・気候変動・気象・防災事務次官(44)は「米国の権利」としながらも失望を隠さな

い。「この国の人たちは快活だが、かなり追い込まれている。人命のかかった問題だということをもっと多くの人に知ってほしい」と訴えた。(アウキ共同)板井和也